

2009年5月15日

## エジプト経済 好調な内需が下支え

### **2009年1-3月期 GDP 成長率は予想を上回るプラス 4.3%**

エジプト政府が13日発表した2009年1-3月期の国内総生産（GDP）伸び率は、前年同期比で+4.3%となった。世界経済危機の影響でスエズ運河通行料収入や観光収入が落ち込んだものの、建設、通信など内需産業の伸びが相殺した。また、前期（2008年10-12月期）の+4.1%も上回る結果となった。

モヘディン投資相は閣僚会議後のインタビューで、景気の上振れを示唆するコメントを表明している。

1-3月期の成長率は大方の予想を上回り、エジプト経済の外的ショックに対する強さを示す内容となった。

GDP発表後、政府は08/09年度（08年7月～09年6月）の成長見通しを4～4.5%に上方修正した。先月発表された予想成長率は4%だった。

エジプト証券大手ベルトン・フィナンシャルのシニアエコノミスト、レハム・エル・ドソキ氏は顧客に送信した電子メールの中で、「1-3月期の成長率は我々の予想を上回る内容となり、ポジティブ・サプライズだ」と述べた。

政府は今年度LE 150億規模の財政出動を見込んでおり、来年度も同規模の景気刺激策の実施を検討している。

スエズ運河通行料収入は世界景気の落ち込みを反映し、前年度比22%下落。下落幅は10-12月期のマイナス2.5%を大幅に上回った。観光収入も前年同期比6%の下落を記録し、外需産業の低迷が顕著となった。しかし、建設と通信は前年度比で14%、16%それぞれ成長し、内需産業の堅調さが目立った。

メリルリンチの在ロンドンエコノミストのターカー・ハムザオグル氏は「個人消費による下支え効果がみられる」と述べており、内需産業がエジプト経済をけん引する構図が鮮明になりつつあると分析している。

最新のIMFの予測では、2009年の新興国経済成長率は平均+1.6%となっており、エジプト経済の成長ペースはそれを大きくアウトパフォームする可能性が一段と高まった。